



## 第2回 昆明市の女子高校とのオンライン交流



令和3年12月10日(金)

### ～Friendshipに乗って～

先月12日に出発した「友覧船」Friendship号で、2回目の交流が開催された。今回は「私の一日」というタイトルで、それぞれの学校の代表3グループが、「月曜日（平日）」、「土曜日」、「日曜日」に分けてパワーポイントを用いて発表。具体的には、月曜日の時間割、授業の科目、昼食、放課後の部活動、休日の余暇の過ごし方などについてである、まず昆明側から発表を行い、それを聴いた本校の生徒から「全寮制で、起床は6時半。そして体操も!!」、「あっ、日本語の授業もあるんだ。何か嬉しい」、「食堂でのお昼のおかず、美味しそう」、「周りの自然がきれい」など歓声が沸き起こる。



### ～Hardshipを乗り越えて～

次に本校の生活を伝えると、昆明の生徒たちは昼食のお弁当や部活動の弓道の画像を珍しそうに眺めたり、クリスマスシーズンに向けた名古屋駅のイルミネーションに目を輝かせたりと、発表している本校生徒も思わず声に力が入る。一方で、Zoomでの画面共有に手間取ったり、苦勞して作成したパワーポイントのスライドショーがスムーズに流れなかったりと、様々な苦難に遭遇。しかし Friendship号はそうしたHardshipという暗礁に乗り上げることもなく、それを乗り越えて日本の高校生の日常をうまく伝えた。



### ～今後の交流はどのような形になるのか～

「私の一日」の発表後の質疑応答では、昆明側から日本の伝統的な祭りについての質問があり、本校生徒が即座に「七夕祭り」の例を出して説明。奇しくも「七夕」は中国から由来したものとされており、昆明の生徒たちにもなじみのあるもの。本校からの説明に彼女たちのメガネの奥の目が星のように再びキラキラと輝く。

また、髪型は校則でどう規定されているかの話題では、昆明のほうが厳しく「髪は結ぶこと。前髪をつくることは禁止」というものであった。昆明の高校生は朝から晩まで、まさになりふり構わず勉学に励んでいることの表れかもしれない。

最後に、日本雲南聯誼（れんぎ）協会の初鹿野（はじかの）理事長から両校の生徒たちへエールが送られた。そのなかで本校に対して、昆明の女子生徒の日本語学習にぜひ協力してほしいとお願いがあった。「そういえば、きょうの彼女たちの発表で平仮名が書かれたボードがあったよね」と、口には出さない声が聞こえてきて、今回の交流にも同席していた服部俊之校長の承認を得て、昆明での日本語授業へのオンライン参加など、喜んで協力するという事になった。

かくして、「相互の歴史・文化の共有」、「英語での意思疎通による語学力の向上」に加え、さらに新たなミッションをもつ船旅が始まったのである。

‘Partnership’ という名前で。

